

# 池田文書の研究 (40)

## 勲功華族の書簡 (その4)

### 池田文書研究会

#### [41] 周布公平の書簡 (前承)

15 明治 年12月4日 (988)

(封筒表) 駿河台甲賀町 池田謙斎殿 病用  
周布公平

(封筒裏) 封 五番町十四番地 封  
拝啓、引続御配慮奉感謝候、扱は一昨夕より之痙攣今以不止時々強発仕候、乍然昨夜ハ九時比ニ壹度大ニ痙攣致シ候後ハさ程大痙攣ハ来らず、却て一昨夜よりハ穏ナル方ニ有之申候、今朝ハ余程胸苦敷と相見ヘ類ニウナリ申候、眼光ハ大分宜敷様ニ御座候、何分重症ニテ全快無覚束事トハ存候得共、長引候ゆヘ又々御薬術の功驗ニヨリ万一活路を得候哉も難計と尚ホ希望心を捨テ不申候、就ては乍御多忙本日ハ是非御来診被成下、篤と御見込の段小生迄御申聞け被下候様奉願上候、齒ハ大クハ喰ひしぼり居候得共、薬水并ニソツプハ可ナリ相通り申候、大便ハ昨朝来無之少便ハ度々有之申候、書余ハ執事より御聞取の程奉願上候、草々頓首

十二月四日午前七時 公平  
謙斎殿 玉案下

16 明治 年4月4日 (977)

拝啓、昨朝頂戴之水薬ハ従前の方ト違ひ大ニ苦味有之候、右ハ御加減相成候哉相候候、小児臍の廻リたゞれ候間、今日ハ御来診仰望仕候、拜具  
四月四日 周布  
池田殿

17 明治 年11月20日 (974)

口上  
拝啓、宇都宮愚妹事一昨夜以来発熱甚敷、少々感冒之気味ニ相見ヘ候間、本日小原君ニ御代診相

願候也

十一月廿日 周布公平

池田様 御中

18 明治 年11月24日 (983)

(封筒表) 駿河台甲賀町 池田謙斎殿 病用  
周布公平

(封筒裏) 封 五番町十四番地 〆  
拝啓、宇都宮愚妹事過る十九日以来ベルツ氏処方ニ従ヒ肝油并サルチユスサン相用ひ来候処、追々食気を失ひ、且ツ壹兩日来咳キも少々相起り申候間、本日乍御苦勞御来診被下候様奉希上候、且又サルチユスハ散薬ニテは何分飲ミ兼候間、適宜之分量御見計ひ丸薬ニ御調ヘ兩三日分此者ヘ御渡シ奉希上候、為其早々頓首

十一月廿四日 周布公平  
池田殿

19 明治 年11月8日 (973)

(封筒表) 駿河台甲賀町 池田謙斎殿 持史  
周布公平

(封筒裏) 〆 (封筒上下にあり) 五番町十四番地  
昨日ハ御来車難有奉多謝候、其節被仰聞候荆妻并愚妹内用薬、小児外用膏薬及ビ荆妻ルユマチス外用水とも此者ヘ御渡可被下候、為其拜具

十一月八日 公平  
池田殿

20 明治 年11月10日 (975)

拝啓、宇都宮小児事母と同居致候ては何分乳離れ六ツケ敷御座候間、下谷龍泉寺村之或ル懇意先ヘ相預け候事ニ取極め申候、就ては上野根岸浅草吉原辺之内ニ御存之名医有之間敷哉、壹名御指名奉

希上候、御宅并岩佐よりハ大ニ遠隔ニ相成候ゆへ、右近方之医師ニも相託置度、由テ御指名を仰候、宇都宮愚妹之葉并ニ小生豚兒腫物之膏薬一具此者へ御渡可被下候、且又荊妻右眼少々相痛ミ候間水薬相差シ度少量御投与相願候、為其草々拜具  
十一月十日 公平  
池田殿

21 明治 年3月31日 (968)  
(封筒表) 池田謙齋殿<sup>(ママ)</sup> 持史 周布公平  
(封筒裏) 封(上下にあり) 五番町  
拜啓、宇都宮剛儀当地ニ別ニ親類も無之ニ付、病症国本親兄弟共へ報知仕置度存候、就ては仍ホ橋本軍医監へも一応診察相頼ミ同人の見込をも承度候、如何可有之哉貴意相伺候也  
三月卅一日 公平  
池田殿

22 明治 年4月24日 (981)  
拜啓、小児儀今以腹中相調ひ兼候、昨夜ハ大便三度有之其度毎に腹痛を發シ候と相見へ号泣仕候、便色も青色を含ミ居候、荊妻儀下り物止マリ不申段々多ク出候様申候間、御勘考の上御投薬可被下候、宇都宮入院の儀ニ付病院之都合聞合候処、上等室ハ満員、中等室老人昨日退院致候者有之由、高階経徳より申越候間、明日明後日の中入院可為致よふ返答致置候、本日橋本氏ニ御面会相成候得ば万御相談可被下候、為其草々頓首  
四月廿四日 公平  
池田殿

23 明治 年1月23日 (3216)  
拜啓、昨夜ハ御返書被下今日午前十二字比御来診可被下旨敬承仕候、小生儀本日午後二時過の汽車にて急キ神戸え相帰り候間、何卒右時刻ニ是非御差操御来車奉希上候、尤も朝ノ内は外出仕十一時半迄ニ帰宅御待可申上候、右為念々拜具  
一月廿三日 周布公平  
池田殿

24 明治31年2月3日 (989)  
(封筒表) 駿河台甲賀町 男爵池田謙齋殿 侍史  
(封筒裏) 平河町六丁目二十二 周布公平  
拜啓、益御壯堅被為在奉拜賀候、扱ハ今回勲功ニ依リ特ニ被列華族男爵を賜リ候之御光榮を被為蒙候段、慶賀至極恭奉呈祝詞候、從テ此品乍些少祝意を表候印迄ニ為持差出候間、幸ニ御笑留可被下候ハ幸甚ニ奉存候、為其草々敬具  
二月三日 周布公平  
男爵 池田謙齋殿

#### [42] 曾我祐準の書簡

当家は柳川藩士家。  
祐準<sup>すけのり</sup>は天保14年生まれ昭和10年没。函館鎮撫・西南戦争に功あり。陸軍士官学校校長・東宮大夫歴任。子爵。享年92。(1844-1935)

1 明治22年11月6日 (1080)  
(封筒表) 侍医局長 池田謙齋殿  
(封筒裏) 緘 東宮大夫子爵 曾我祐準  
来ル十三日午後五時三十分当御殿ニ於テ御陪食被仰付候間、御參殿有之度此段申進候也  
明治二十二年十一月六日  
東宮大夫子爵 曾我祐準  
侍医局長 池田謙齋殿  
追テ当日燕尾服用ノ筈ニ候、且御請書来ル十日迄ニ御差出有之度候也

#### [43] 高木兼寛の書簡

男爵高木兼寛の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に5通掲載に付き省略。

#### [44] 高崎正風の書簡

男爵高崎正風の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に4通掲載に付き省略。

#### [45] 田尻稻次郎の書簡

当家は薩摩藩士家。  
稻次郎<sup>いなじろう</sup>は嘉永3年生まれ大正12年没。米国学し経済・財政を学ぶ。大蔵次官・会計検査院長歴任。子爵。享年74。(1850-1923)

## 1 明治 年7月2日 (1975)

先刻は自由之儀御願申上候処、早速御門人大原君御来臨被下御厚意之程奉万謝候、扱其後小兒之様子モ相替ル事無之三枝家之老祖母も相見へ、御都合被下候ハ、是非先生之御診察相願度、小生ヨリ早々右之段御願申上様ニトノ事ニ候間、夜中申兼候儀ニは候得共前陳之事情ニ候間御繰合今夜中ニ御来臨被下儀も相叶申間敷哉、此旨乍自由以書中御願申上候、頓首

七月二日 田尻稲次郎  
池田謙斎先生

## [46] 田中不二麿の書簡

当家は尾張藩士家。

田中不二麿の書簡は『東大医学部初代総理池田謙斎』下巻に6通掲載した。未掲載分を記す。

不二麿は弘化2年生まれ明治42年没。文部大輔・司法卿・司法大臣歴任。子爵。享年65。(1845-1909)

## 1 明治10年1月19日 (3480)

陸軍々医兼三等侍医

文部省御用掛 従五位 池田謙斎

東京医学校長ノ任ヲ囑シ候事

文部大輔 従四位 田中不二麿

明治十年一月十九日 文部省之印(角印)

## 2 明治 年4月17日 (1997)

敬陳、来ル二十三日午下七時弊舎ニ於て晚餐ヲ共ニシ清雅ニ接スルノ榮ヲ得度御惠顧被成下候ハ、至幸ニ候、拜具

四月十七日 田中不二麿  
池田謙斎君

逐て御来車之有無御一答ヲ煩シ候也

## 3 明治 年4月25日 (2000)

来ル五月五日午後六時三十分敝堂於テ晚餐ヲ共ニスルノ飲ヲ得度御貴臨被成下候ハ、欣幸ノ至ニ候也、拜具

四月廿五日 田中不二麿  
池田謙斎君

追テ御貴臨ノ有無御一答ヲ煩シ候也

## [47] 田中光顕の書簡

当家は土佐藩士家。

光顕の書簡は『東大医学部初代総理池田謙斎』下巻に2通掲載した。未掲載分を記す。

光顕は天保14年生まれ昭和14年没。警視總監・学習院々長・宮内大臣歴任。伯爵。享年97。(1843-1939)

## 1 明治37年4月17日 (1978)

赤坂離宮御苑之製茶壺被下候間御廻申入候也

明治三十七年四月十七日 田中宮内大臣

池田宮中顧問官殿

追テ御礼之儀ハ取計置候ニ付御参ニ不及候間為念申添候也

## 2 明治38年5月12日 (1979)

来ル十六日芝離宮ニ於テ午餐下賜候旨御沙汰候條午十二時同所へ参入可有之此段申入候也

明治三十八年五月十二日

宮内大臣子爵 田中光顕

宮中顧問官男爵 池田謙斎殿

追テ参否御申出可有之候也

## [48] 田中芳男の書簡

男爵田中芳男の書簡は『東大医学部初代総理池田謙斎』下巻に2通掲載に付き省略。

## [49] 辻新次の書簡

男爵辻新次の書簡は『東大医学部初代総理池田謙斎』下巻に6通掲載に付き省略。

## [50] 堤正誼の書簡

当家は福井藩士家。

正誼は天保5年生まれ大正10年没。明治4年侍従となり以後宮内省要職を務め宮内次官等を歴任。男爵。享年88。(1834-1921)

## 1 明治 年4月14日 (2048)

頃日来朝之独乙国紳士ポーニンゲル氏夫妻御造営

場拜觀之義ニ付御申越之趣敬承、右は来ル十七日午後二時坂下御門外柵門え向ケ参入有之候得は案内之者差出置候様可致候、此段拜復迄得貴意候、草々頓首

四月十四日 堤正誼  
池田謙斎殿

2 明治 年11月12日 (2050)

拜啓、陳ハ赤坂御苑内え鮫橋下水流通一条ニ付、過日ハ御見分被下其後御意見書御廻し被下、拜見之上宮内大臣え指出し候処、右ハ当分御見込ミ通り致し候外有之間敷ニ付、老臺より御意見之次第ヲ以テ長與氏え御示談被下候様致度旨小生より可申上トノ事ニ付、一昨日観菊之節御相談可致覚悟ニ御坐候処、御不参ニ付伊東岩佐兩氏え前条老臺迄御通知申上呉候様申入レ置候得共為念此段更ニ内陳仕置候、草々不備

十一月十二日 正誼 拜  
池田侍医殿 梧右

3 明治 年2月28日 (2052)

愈御清穆御起居被成奉敬賀候、陳ハ昨日宮中ニ於テ鳥渡奉願置候荆妻義、未タル々不仕岩佐門人之申候にてハ全ク腎臟病之様申聞候、就てハ何卒御繁用中恐入候へ共御繰合被成下明日御來診被成下候様伏て奉希上候、参上御願可申上管御坐候処、本日ハ横浜迄出張仕候故乍略儀以紙面奉願上候、草々頓首

二月廿八日 堤正誼  
池田一等侍医殿 閣下

4 明治 年4月6日 (2051)

二白、荆妻様体ハ先達て御來診被下候末何之相替り候義無之候間宜奉願上候也  
愈御清祥奉恭賀候、陳ハ荆妻小便為持指上置候間御試験被成下候様奉願上候、岩佐門人林申聞候ニハ近來ハ少々養分之物相混し居候趣申聞候、何分一応御試ミ被下候様奉伏希候、草々頓首

四月六日 堤正誼  
池田先生 研北

5 明治 年7月12日 (2049)

益御清祥奉賀上候、陳ハ当春荆妻病氣之節ハ御繁用中毎々御來診被成下万々難有奉感謝候、就てハ此書幅并ニ壺包之内金拾円聊カ御謝儀之印迄ニ拜呈仕度御笑留被成下候は、難有奉存上候、書余拜青ニ譲り候、草々頓首

七月十二日 堤正誼  
池田先生 梧右

[51] 鳥尾小弥太の書簡

当家は山口藩士家。

小弥太は弘化4年生まれ明治38年没。幕末維新に活躍3年兵部省出仕。翌年陸軍少将となり9年中将に進んで陸軍大輔となる。子爵。享年58。(1848-1905)

1 明治 年 月10日 (1066)

✍  
(端裏書) 池田様 御直披 鳥尾 拜  
✍

拜啓仕候、小兒病氣都合不相變時々熱発致し困却仕候、就てハ入院之義貴兒ニも御同案之由、昨夜橋本・原兩氏來診之上相談仕、愈下谷病院え入院為仕候運びに取懸り申候、いつれ四五(日)中ニは御運びに相成可申候、就てハ今一応入院前御來診被下度相願申候得は其節可申上、先は為其拜具  
十日

[52] 長松幹の書簡

当家は山口藩士家。

幹みきは天保5年生まれ明治36年没。明治5年正院歴史課に出仕、修史局長等歴任。男爵。享年70。(1834-1903)

1 明治 年9月13日 (2214)

拜啓、過日は於松野方始得披慮該人も以高庇追々快方ニ赴奉深謝候、陳ハ至極唐突之願御坐候得共愚息儀一昨日來急ニ松野類似之症相発シ昨夜は不堪苦楚誠ニ難渋仕候付、御多忙中申上兼候得共今日何卒御一診奉願度、御許容被下候ハ、大幸奉存候、私儀は御新識之儀にて松野ヲ以相願候答ニ御

坐候処該人も執筆ニ苦候故乍卒爾直々奉願候、此  
段御恕容奉希上候、草々頓首

九月十三日 長松幹

池田大典科

本文之儀伏て御許免奉願候

### [53] 中村覚の書簡

当家は彦根藩士家。

覚<sup>さとる</sup>は安政元年生まれ大正14年没。日清・日露  
戦争に功あり。侍従武官長等を歴任。陸軍大将。  
男爵。享年72。（1854-1925）

1 明治25年9月14日 (2181)

益御精福奉賀候、陳ハ小生義過日中佐<sup>(1)</sup>ニ昇進僥  
倖之至ニ御坐候、残暑之砌御迷惑之至ニ候得共来  
ル十八日（日曜日）午後五時芝山内紅葉館ニ於テ  
麩酒差上申度御来駕被下候ハ、幸甚之至ニ御坐  
候、御案内迄申上候也

追テ御略装ニテ御来臨之程御願上候、尚又東宮  
御所同勤之諸君及ヒ他ニ二三ノ軍人知己等御同  
席御願申上候、御面倒ナカラ御差支之有無来ル  
十六日迄ニ御一報被下度候、謹言

九月十四日 東宮武官 中村覚

池田謙斎様

(1) 中村覚は明治25年9月歩兵中佐となる。

### [54] 永山盛輝の書簡

永山盛輝の書簡は『東大医学部初代総理池田謙  
斎』下巻に2通掲載に付き省略。

### [55] 長与専斎の書簡

長与専斎の書簡は『東大医学部初代総理池田謙  
斎』上巻に65通掲載に付き省略。

### [56] 鍋島幹の書簡

当家は佐賀藩士（藩主の後裔）家。

幹<sup>みき</sup>は弘化元年生まれ大正2年没。維新後真岡・  
日光・栃木（県令）・青森・広島各県知事歴任。  
男爵。享年70。（1844-1913）

1 明治 年3月2日 (3605)

雪多無常春寒去兼候処益御清勝奉賀候、偕平素御  
起居も不相伺卒然難得貴意候得共、医学士石黒宇  
宙治<sup>(1)</sup>ナル者少子栃木県奉職中宇都宮病院長ニ相  
雇置其後縁者ニ相成居候処、同人義長ク地方在勤  
候ては學術之退縮ヲ深致憂慮、医学部入勤之志願  
宿望ニ有之処より去冬満任之期を得断然解職、尔  
来当地ニ滞在罷在候、然ルニ近日助手中洋行之御  
決議相成候哉ニ承候ニ付ては、是非此際宿願を達  
度、三宅部長<sup>(2)</sup>へも縷々申入（欠）御承諾ヲ得、  
猶石黒氏へも委細申入置候得共、到底御裁可無之  
候ては勿論不相濟義ニ付、何卒御差含置被下情願  
相叶候様偏ニ奉懇願候、尚詳細本人ヲ以具上可仕  
候付、御煩忙之半恐縮ニ候得共、暫時御面謁を賜  
候得は幸甚不過之候、実は少子參殿可相願無抛  
公事相生、若し機会ニ後レ候ては遺憾ニ有之候  
間、乍失敬先以書中御願申上候、いつれ不遠拜趨  
万々可申上此旨御願如期御座候、謹言

三月二日

(1) 石黒宇宙治 明治12年東大医学部卒業。

(2) 三宅秀<sup>みやけひさ</sup> 明治14年より18年まで東大医学  
部々長。18年より20年迄在官のまゝ欧州出張。

(注) 本書簡には発・受信人名が欠けているが、  
「東大医学部初代総理池田謙斎」上巻56頁石  
黒忠恵書簡（428号・3月2日付）に関連の文  
言がある。同書簡によれば、鍋島幹が女婿石  
黒宇宙治医学部就職の口添えを依頼している。

### [57] 奈良原繁の書簡

当家は鹿児島藩士家。

繁は天保5年生まれ大正7年没。明治11年内  
務省に出仕し以後農務・工部省を経て沖縄県知事  
として活躍。男爵。享年85。（1834-1918）

1 明治 年4月6日 (2328)

猶々後刻御出被下候事ニ承居候得共為念重テ奉  
拜願置候

尚御清適被為涉大慶奉存候、扱仲事も御蔭を以日  
ニ増シ快方ニ存居候処、今朝より急ニ発熱食事も  
進ミ兼致心配居候間恐縮奉存候得共御出奉願度此

段以僮書を奉拝願候、以上

四月六日

奈良原繁

池田謙齋様

2 明治 年 月 27 日 (3112)

益御清適被為涉大慶奉存候、然は過日来先生御はしめ於閣下ニも屢辱シ御来診ヲ、御蔭を以今朝は十日目初て独力にて小用を弁シ誠嬉シキ次第、全御高配之故と深く奉感佩候、とふぞ先生え右之趣閣下より被仰上置被下度、嬉シサノあまり此段一筆容体申上候、以上

廿七日

奈良原 拜

小原様

3 明治 年 6 月 4 日 (2329)

(封筒表) 池田先生閣下

(封筒裏) 封 奈良原印 ふじ見丁二丁目二番地

奈良原繁

尚御安康奉拝慶候、さて過日来院長御撰定之義ニ付ては屢参館御煩し仕候、将何も御面働之儀と奉恐縮候得共、此来貴族院議員男爵議員欠員之節島津長丸<sup>(1)</sup>殿を御撰挙被成下候様小官より御願申上くれ候儀を先日来毎々依頼有之間、外ニ御先約も無之候ハ、御賛同被成下候事ニ奉願度、参館可奉拝願之処却て御煩敷奉存今日仲参上仕候由付、以書中を此段奉拝願候、書外拝顔可奉謝候、以上

六月四日

奈良原繁

池田先生 閣下

- (1) 島津長丸<sup>ながまる</sup> 明治4年生まれ昭和2年没。鹿児島藩宮之城領主島津久治の長男。貴族院議員。男爵。享年57。(1871-1927)

### [58] 乃木希典の書簡

乃木希典の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に1通掲載に付き省略。

### [59] 野村素介の書簡

当家は山口藩士家。

素介<sup>もとすけ</sup>は天保13年生まれ昭和2年没。文部省に出仕し教育行政に携わる。男爵。享年86。(1842-1927)

1 明治(11)年7月9日 (2381)

(封筒表) 医学部 池田謙齋殿 至急親展

(封筒裏) 緘 野邨素介

永松東海<sup>(1)</sup>採用之件陸軍省え照会ニ付、御上申書何分不分之廉有之候ニ付乍御苦勞明朝一寸御参省相成度存候、書上之御往復ニて難相悉候、為其草々

七月九日

野村素

池田殿 几下

- (1) 永松東海 天保11年生まれ明治31年没。佐賀出身。幕末明治期の蘭方医・化学者。明治7年初代東京司薬場長日本薬局方制定に尽力する。享年59。(1840-1898)

(注)『東大医学部初代総理池田謙齋』上巻(85頁)林紀の書簡(2482号・明治[11]年7月8日付)に「永松東海軍医採用云々」の記述あり。

2 明治 年 2 月 19 日 (2383)

(封筒表) 医学部総理 池田謙齋殿 親展

野村素介

(封筒裏) 〆

今日御咄之大沢謙二<sup>(1)</sup>事ハ文部省御用懸ニシテ御手当ハ一ヶ年千円給付相成候てハ如何哉、本来私費之事ニ付右額丈も給与相成候ハ、可然と大輔殿も被申候、且又御用懸ハ判任ニて可然哉と存候、判任ナレハ本省限ニ相運候、奏任ナレハ大政官へ上申之上被命候事ニ付彼是手数ニも相成候、右両条御意見承知仕度御報示相願候、不悉

二月十九日

素介

池田殿

- (1) 大沢謙二は明治11年私費にてドイツ留学するが、これを文部省留学生にする手続きか。

3 明治13年3月1日 (2384)

(封筒表) 大学医学部 池田謙齋殿 親展

文部省 野邨素介

(封筒裏) 緘

来ル三日京都府知事山口島根両縣令并属官及県会

議員共惣員凡二十五六名貴学部一覽いたし度旨申出候、付テハ同日午後より少官同伴参校候間諸事可然御取計被下候様いたし度、此段及御倚頼候、草々

十三年三月一日 野邨素介  
池田謙齋殿

4 明治 年9月25日 (2382)

過日来掛御苦勞敬謝仕候、病児事御蔭ニ而漸次快徵ヲ現シ昨今ハ食気も相催シ随て大ニ気力も相整申候、此体にてハ四五日内ニハ床ヲ離可申敷と相娛候、いつれ近日為御礼参堂可仕候得共其内不取敢以書上得貴意候、草々拜具

九月廿五日 素介  
池田老台 研北

[60] 野村靖・山縣直吉の書簡

当家は山口藩士家。

靖やすしは天保13年生まれ明治42年没。明治4年宮内権大丞、内務・逓信大臣歴任。子爵。享年68。(1842-1909)

山縣直吉は野村靖の掛り附けの医師。

1 明治14年12月14日 (2387)

(封筒表) 駿河台甲賀町 池田謙齋殿 親展  
(切手一銭 消印 東京一四・一二・一四・に)  
(封筒裏) 野邨靖

拜啓仕候、扱ハ山縣直吉身上之儀兼て熱心いたし居候洋行之件何卒老台え御依頼致候様懇願仕候、且昨今御内議も被為在哉ニ付不取敢此段御含迄ニ申上候、自由ケ間布事恐入候得共不悪御高恕奉希上候、先ハ為其勿々頓首

十二月十四日 靖  
池田老台 侍史

2 明治17年2月6日 (2385)

(封筒表) 駿河台北甲賀町九番地  
池田謙齋殿 親展  
(一銭切手二枚 消印 東京一七・二・六・と)  
(封筒裏) 野村靖

食ヒ過キガ悪イカ例物ヲ遣リ過カラ起ルカ如何。

拜啓仕候、扱品川ハ又悪ルキヨシ先達て御内話申上候通り弥悪イ様ナラハ槌と保養サセネハ成り申間布候、右撰養法ニ付ては十分ニ御見込ミ御示シ被下度、左スレハ小生より如何様ニも説き込ミ可申候、右御願旁申上候、頓首

二月六日 靖  
池田先生 侍史

3 明治 年7月12日 (2389)

只今老母并荆妻説教場より帰り候処、同場二階破落候由ニテ背部及胸部を打チ痛み罷在申候、何卒至急御来診被成下度奉祈願候、為右草々

七月十二日 靖  
池田様

4 明治 年8月5日 (2390)

拜啓仕候、昨日ハ遠方殊に酷暑之際御降臨被成下万謝不啻奉存候、御蔭を以昨夜来別て穩かに相過一家始めて肩を披候仕合ニ御坐候、別封容体書山縣生え相認めさせ差出申候間御一覽奉希上候、先ハ一応之御礼且御報道申上候迄、草々頓首

八月五日午後三時 靖  
池田先生 坐下

5 明治 年11月5日 (2388)

(封筒表) 池田謙齋様 親展  
(封筒裏) 緘 野村靖

拜啓、一昨夜ハ御光来被下御懇情感謝仕候、昨夜は先以穩眠之体にて一家稍安堵之思ひを致し候ハ、様態御笑察可申候、別紙山縣より容体申上候間可然御指示奉冀候、猶御序御差繰被成下御来診之程奉希上候、為右旁草々頓首

十一月五日 靖 拜  
池田先醒 閣下

(同封書簡)

拜啓仕候、陳ハ野村患者昨朝より御処方之通施行仕候処、午前十一時ころより劇キ痙攣嘔吐等頻発仕候ニ付不得止モヒ皮下注射兩度相施候処、昨日夕方より諸症鎮降昨夜ハ四時キ安眠、昨夕今朝兩度粥半椀ツ、御召用仕候、今朝よりハ今以痙攣等ハ無之候得共痔核痛 (anfallsweise zusfande schmerz<sup>(1)</sup>)

有之老度少々下血仕候

○便通ハ昨日澹便一行有之ノミ

○脈度ハ百至、心音ハ矢張 unrein<sup>(2)</sup> 御坐申候、右之容体ニ付向來処方之儀可然御指揮奉希上候、以上

直吉 頓首

池田先生 侍史

(1) 発作的痛み.

(2) 不純.

6 明治 年2月22日 (2392)

過日は御來臨被下御(欠)情多謝仕候、爾後(欠)情ハ無之候得共頭(欠)重キヲ覚へ昨夜発泡膏ヲ付候体にて于今快気仕兼候、就てハ兩三日中ニ池田先生御見舞被下候様御序ニ御伝声被下度御依頼申上候、実ハセメンズ<sup>(1)</sup> 療治中ニ候得共頗ル不安心之様ニ相考(欠)間無拋池田先生へ御苦勞相願度存候、其辺可然御伝被下度候、將又爾後山縣君容体如何哉、御序ニ承り度奉存候、右ハ過日之御礼旁勿々頓首

二月廿二日

野村靖

品川老兄

追て代筆御免可被下候

(1) セメンズ シモンズ. 米国医師. 安政6年(1859) 宣教師として来日、その後医師として明治4年横浜十全病院設立. 福沢諭吉の知遇を得日本史の研究に従事. 明治22年2月19日没. 享年56. (1834-1889)

(注)『東大医学部初代総理池田謙斎』下巻(531頁)、品川弥二郎の書簡(905号)2月23日付に同封されたもの.

7 明治 年7月16日 (3165)

老人事昨日(欠)一層之困却(欠)今曉原先生来診ニ御坐候処、是非老台御来診を乞ヒ度旨に御坐候、就てハ千万御勞之程恐入候得共、可成至急御来車之程奉祈願候、為右草々頓首

七月十六日

靖

池田老台 侍史

8 明治(24)年7月11日 (3166)

明後十三(欠)より出発<sup>(1)</sup>仕候付御暇乞ニ参上仕候、関心只一事老母年々に衰フルニ在り、偏に老台に御依頼申上候、緩々拜晤御願申上候積り之処、切迫之期ニ立到り不能其事万御推慮伏て奉希上候、山縣直吉時々平常ニ注意致呉居候間、是亦御含可然御紹引至願ニ不堪候、為右御願頓首

七月十一日

靖

池田老台 台下

(1) 明治24年フランス公使赴任の事か.

9 明治 年4月1日 (2391)

(端裏書)池田老台 野村

御無音のみ申上候、扱河原一義と申者先年御診察相願候事有之由ニ候へ共猶今一応相願度志願に御座候、右ハ頗ル難症之由にて当人も最後之療養と相決し居申候、今日本郷病院え参ル筈ニ御さ候、自然老台え前条相願候節ハ何卒可然御診察奉希上候、弟も昨日より出京当分ハ滞在仕、宿ハ先ツ一石橋の三河屋と申ス旅店ニ致申候、其内拜晤可申上候也、頓首

四月一日

靖

10 明治 年5月10日 (3185)

拜啓仕候、本日万里小路<sup>(1)</sup>より紅葉館え御出相願候処、御用間之由ニ御坐候て遺憾罷在候、付ては明十一日午后四時半より同処え御來臨被下候事相叶申間布哉、此段更ニ申上候間素志相叶候様仕度願上候、為右草々頓首

五月十日

靖 拜

池田老台 几下

(1) <sup>までのこうじ</sup>万里小路 万里小路正秀(公家万里小路の分家)の妻は野村靖の長女久子(後に久子は離婚し本野一郎夫人となる)

11 明治31年2月3日 (2386)

(封筒表)東京駿河台甲賀町

男爵 池田謙斎殿 親展



（切手式錢一枚 相□小田原卅一年二月三日ハ便）

（封筒裏）絨 相州小田原幸町 野村靖  
 拝啓、今朝新聞紙上にて昨日御授爵之栄を受させられ候事拝見いたし誠ニ欣喜ニ堪へず候、多年之御勲功今日ニ顕われ候儀感心之至ニ存上候、不取敢御喜ヒ申上度如此ニ御座候、為右頓白

二月三日 靖

池田男爵 侍曹

御宿病別て御自重被成下度企望之至に候、荊妻よりも本文之通同様御欣ヒ申上候、可祝

12 明治 年7月7日 (3254)

拝啓仕候、陳は野村靖ノ妻過日四日男子安産仕候、右分娩後今日迄悪露之洩泄もよろしく熱度昇進も無之、食思心思共如常ニ候得共、右肺尖ノ濁音第二ノ肋間迄下り（此迄は第一肋間ノミ相止候ト）且又該部ニ不絶鈍痛有之候、旁大ニ心配罷在候、此迄ハ行成幾那煎ノミ用來候得共、向來如何仕候方可然ヤ、御指揮奉願候、哺乳ハ勿論禁止為仕置候事御坐候、且又産婦ハ産（欠）週日を歴候得共（欠）まで連帰不申□□御坐候得共、夫迄ノ手当注意候儀、御多忙中大ニ恐入候得共書中御教示被成下度奉仰望候、先は右相願度如此ニ御坐候也

七月七日 直吉 頓首拜

池田先生 侍史

御返書之儀ハ小田原幸町老丁目三井銀行向ヒ野村方山縣直吉。右之処へ宛御（欠）被下度奉（欠）

[61] 橋本綱常

当家は福井藩士家。

綱常の書簡は『東大医学部初代総理池田謙斎』上巻に20通掲載した。未掲載分を記す。

綱常は弘化2年生まれ明治42年没。橋本佐内の弟。東大医学部教授・陸軍々医総監等歴任。子爵。享年65。（1845-1909）

1 明治30年9月20日 (2507)

（封筒表）神奈川県鎌倉長谷新宿 池田謙斎殿

（消印 □□□倉 □□九月二十一日ハ便）

（封筒裏）絨 葉山御用邸 侍医局

皇太子殿下御容体昨夕上申後、御頸腺腫脹并ニ御胸部ハ昨日御同様、御結膜カタルハ殆御全治被遊其他御気先御食気御宜敷被為在候此段上申ス。

橋本綱常・岡玄卿・林秀馬・池辺棟三郎

九月二十日

午前六時 体温三六・三 脈搏七〇 呼吸二〇

午前九時 体温三六・七 脈搏八〇 呼吸一八

午後三時 体温三七・三 脈搏八二 呼吸一八

午後六時 体温三六・八 脈搏七六 呼吸二〇

（用箋 侍医局）

（注）『東大医学部初代総理池田謙斎』上巻（84頁）橋本綱常の書簡（2423号・明治30年9月23日付）に関連書簡あり。

[62] 花房義質・福次郎の書簡

当家は岡山藩士家。

義質は天保13年生まれ大正6年没。ロシア、特に対朝鮮外交に活躍した。宮内次官・日本赤十字社長等歴任。子爵。享年76。（1842-1917）

福次郎は明治43年生まれ昭和14年中国にて戦死。義質の長男子爵花房太郎海軍少将（昭和7年没）の次男に当る。享年30。（1910-1939）

1 明治 年8月28日 (2453)

（封筒表）池田謙斎先生

（封筒裏）花房義質

取紛れ御無音打過候、然ハ愚妻義兼て充分健康ニも無之より先生之御診断を仰き御治療を請度と昨年渡辺洪基より願置たる事も御坐候ひしか、其後も為差事も無之よりツイ其假打過居候得共、昨今之残暑ニは眩暈之気味も有之腹合も快からず兎角一応御診断を願度近日中推参致させ可申候付、可然奉願候、右相願候ため小生参堂仕へく之処、兎角取紛れ余り遅々を恐れ不取敢以書面相願候、御在宿之刻限等ハ執事より示しを受候事と存候、右相願度迄、余ハ拜眉之節草々頓首

八月廿八日

花房義質

池田先生 台下

## 2 明治 9年9月30日 (2454)

(封筒表) 東京浜町老町目<sup>(1)</sup> 池田謙斎様 親展  
花房義質

(封筒裏) 〆

出立前ハトウトウ拝顔を得るニ至らず失儀乞海恕  
之外無御坐候、妻か病ハ差向有るへしとも不存候  
得共、老幼之世話を委ねて遠方ニ出かけ候てハ自  
から関心も免かれ難く御坐候、御繁務之御中ニハ  
候得共、棄させられず可然御配意之程奉願候、先  
ハ御不音之御断旁草々如此御坐候、頓首

九月卅日 書於玄界洋中 義質 拜具  
謙斎先生 侍者

(1) 池田謙斎は明治9年5月より11年3月まで  
浜町1丁目に住む。

## 3 昭和14年2月27日 (2452)

(封筒表) 東京市杉並区西田町一ノ七三一

池田真次郎<sup>(1)</sup>様 (二銭切手二枚)

(封筒裏) 緘 千葉市歩兵学校教導連隊歩兵砲隊  
二月二十七日 花房福次郎

拝啓、陽春の候益御健勝大慶に存じます。今度は  
御目度度う御座います。御祝詞申し上げます。長い  
間の御無沙汰で申訳ありません。併しいつも御元  
気の様子を伺っていて安心していました。昨年一  
月歩一へ入営二月に北満泰安鎮(齊齊哈爾の北)  
につれて行かれ、歩兵砲手として怒鳴られ殴られ  
て鍛へられました。話以上の荒さに反感さへ起り  
ました。今考へれば笑つて済ませますが当時の気  
持ちは、いつも「死んだ気で」と思つて働いてい  
ました。上靴、帯革で殴れた味は今も忘れません。  
八月一日に出動命令が降つて天津に行き濁流鎮で  
戦つた、八月十八日今度は承德へ輸送されて、自  
働車で張北へ送られて八月二十一日から行軍し敵  
を追ひつゝ、二十八日張家口へ入りました。その間  
約一ヶ月実に苦しい種々の体験を為しました。日に  
日に戦友が死し傷つきつゝ、減つて行き張家口前の  
戦では砲が一門しか動かなくなつた程でした。九  
月一日に幹部候補生のみ教育の為帰還を命ぜられ  
て南満寛甸に帰り、数日で再び北満の北安鎮へ送  
られてそこで十一月四日十川部隊が帰つて来るま

で四十九連隊にお世話になっていました。十一月  
には相当の寒さで十二月に入れば零下四十五度位  
に降りました。何でも凍つてしまひます。それで  
も演習が行はれました。一月九日除隊を目指して  
黙々として働いて来たのに除隊延期で五ヶ月歩兵  
学校で教育される為一月十二日一年振りで東京へ  
帰つて来ました。流石に懐しく、家は特にいゝと  
思ひました。何しろ一年蒲団でねた事が無かつた  
のですから、早速土人・渡公・仁礼・永山に会つ  
て相変らずのだぼをふき合ひましたが、満州帰り  
は目立つて柄が悪くなつていました。自分乍らあ  
きれます。当地へ来てからも学科と演習で絞られ  
ています。日記帳には不平と愚痴と反感が毎日書  
き連ねてある程です。五月末日退校してもまだま  
だ出られません。昭和十五年といふのが専らの評  
判です。早くも三十一才ですからね。併し永山も  
仁礼もよくやつている様で、自分の戒としていま  
す。日曜は外出出来ますが、家へ帰つても三時間  
しかいらぬので往復に時間をくつてしまひま  
す。四時半に帰らぬと偉い人にしかられます。自  
分勝手な事のみ書き失礼しました。此れも満州帰  
りの心臓の強さでせう。先は御祝申述べて筆を擱  
きます。敬具

二月二十六日

(1) 池田真次郎 明治43年生まれ昭和56年没。  
池田謙斎の長男秀男の次男。昭和5年男爵家  
を継ぐ。農学博士。陸軍主計少佐。享年72。  
(1910-1981)

## [主要参考文献]

- 朝日新聞社編『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社  
1994年11月30日発行  
霞会館諸家資料調査委員会編『昭和新修華族家系大成』  
上・下巻 霞会館 1984年4月10日発行  
池田文書研究会編『東大医学部初代総理池田謙斎』  
上・下巻 思文閣出版 2007年2月25日発行  
日本歴史学会編『明治維新人名辞典』吉川弘文館 1981  
年9月10日発行